

2月17日は「ガチャの日」!**1965年日本に上陸してからの「ガチャの歴史」を公開!****1月下旬より全国のガチャ®売場に
「ガチャの日ヒストリーパネル」の形で登場**

タカラトミーグループの株式会社タカラトミーアーツ(代表取締役社長:宇佐美 博之/所在地:東京都葛飾区)とその子会社である株式会社ペニー(代表取締役社長:森岡 俊広/所在地:東京都葛飾区)は、ペニーが制定した2月17日の「ガチャの日」に向けて、ガチャの歴史をまとめました。2024年1月下旬からはこれを4枚に渡ってデザインした「ガチャの日ヒストリーパネル」を全国のガチャ売場およそ200店舗に設置いたします。



ガチャの日ヒストリーパネルの展示例
(成田国際空港 第1ターミナル地下1階「ガチャワールド」)

「ガチャ®」(カプセルトイ)は、1965年にペニー商会(現:ペニー)によってアメリカから輸入されました。ペニーは日本で初めてガチャマシンを設置した会社として、その創立記念日にあたる2月17日を「ガチャの日」と制定しています。「ガチャの日」にはガチャが子どもから大人まで幅広い世代に愛され、魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いが込められています。

ペニーの親会社であるタカラトミーアーツは、前身となる株式会社ユージンが1988年にカプセルトイ事業に参入しました。それ以来30年以上カプセル自販機(ガチャマシン)と中の玩具を企画製造販売を行い、そのカプセルトイブランドは「ガチャ®」の商標で親しまれています。現在は毎月約40~60種類、年間600種類以上の新商品を発売し、老若男女問わず多くの方々を楽しんでいます。

2024年は「ガチャ」が日本に上陸して59年に当たる年で、両社は来年の60周年を目前にガチャの歴史を振り返り当時の写真や資料とともにまとめました。これは「ガチャの日ヒストリーパネル」の形で1月下旬から全国のガチャ売場(約200店舗)で展示されます。パネルは4枚あり、ガチャマシンの上に設置され、売場でガチャを回しながらカプセルトイが日本に輸入された経緯や当時の商品、過去から現在に至るガチャマシンの写真などガチャにまつわる様々な背景を知ることができる展示となっています。身近に設置されている「ガチャ」の進化の軌跡をこの機会にぜひ商品とともに楽しみください。

「ガチャの歴史」(掲出パネルより一部抜粋)

●手のひらにワクワクとドキドキ

日本にガチャがやってきたのは1965年(昭和40年)

アメリカで生まれたカプセルトイと自動販売機

現在のガチャの原型となるベンディングマシンとカプセルトイはアメリカで誕生。

これを1965年に日本のペニー商会(現:株式会社ペニー)が輸入し、店先に設置していきました。

1965年…日本は高度成長期の真っ只中。

透明なカプセルがぎっしり詰まった不思議なマシンに子ども達はみんな釘付けになりました。ここからガチャの歴史が始まりました。



出典:アサヒグラフ

2月17日は「ガチャの日」

今では子供から大人まで幅広い世代に愛されるガチャ。

そんなガチャをもっと多くの人に知ってもらいたい。

そんな思いから日本で初めてガチャマシンを設置した「ペニー商会」創立日の2月17日が「ガチャの日」(日本記念日協会認定)として登録されています。



●子ども達の人気者になった「ガチャ」

アメリカ生まれのカプセルトイが海を越えて日本へやってきたのは1965年のこと。

日本に輸入され、透明なカプセルの詰まったマシンがおもちゃ屋や駄菓子屋、文房具屋の店先に置かれました。



当時のガチャカプセルは10円、20円が主流で、乗り物やロボットの形をした消しゴムやシンプルなプラスチックのおもちゃが入っていました。

町中に設置されたガチャはたちまち子ども達の人気となり、品切れして1日に何度もカプセルを補充することもあったそうです。

デパートの屋上遊園地に置かれたガチャマシン。子ども達が夢中になったカプセルが詰め込まれています。



写真：成田国際空港 第1ターミナル地下1階「ガチャワールド」

「ガチャの日」歴史パネル展示概要

■展示期間：2024年1月下旬～3月下旬

■展示場所：アミューズメント施設を中心としたガチャ売場およそ200店舗にて展示予定

展示パネルには、パネルの一部をスマートフォンで読み込むと“飛び出すガチャの世界”が表示される「AR」が楽しめる仕掛けもあります。

(パネル設置場所の案内は公式HPにて後日案内予定)

URL: <https://www.penny.co.jp/gacha/202402/>)

●「ガチャの日」を記念したガチャカプセル専用ショッパーを配布！

さらに、2月17日の「ガチャの日」当日には、対象店舗にてガチャカプセル専用ショッパーを配布いたします(無くなり次第終了)。半透明のショッパーはカプセルが縦に4個入る造りで、カプセルを入れるために作られたこの時だけの特別なショッパーとなっています。

回したガチャを入れて、カプセルをおしゃれに持ち歩いてみませんか。



※カプセルは配布物には含まれません

「ガチャカプセル専用ショッパー配布概要」

■配布期間：2024年2月17日(土)～なくなり次第終了

■配布場所：アミューズメント施設を中心としたガチャ売場100～150店舗にて配布予定

(配布場所の案内は公式HPにて案内予定: <https://www.penny.co.jp/gacha/202402/>)

■株式会社タカラトミーアーツについて

玩具メーカー株式会社タカラトミーのグループ会社で、主にガチャ(カプセル玩具)やアミューズメントゲーム、クッキングトイをはじめとする雑貨系商品やぬいぐるみなどを企画・製造・販売しているメーカーです。年齢・世代を問わず、幅広い消費者に驚きやワクワク感を届けられるような商品作りを目指しています。

ホームページ: <https://www.takaratomy-arts.co.jp/>



■株式会社ペニーについて

タカラトミーアーツの子会社で、ガチャ(カプセル玩具)の自動販売機設置及び商品の販売を行っている会社です。前身のペニー商会の時代にアメリカからカプセルトイを日本で初めて輸入し、日本国内の主要エリアに拠点を置き、ガチャマシンの新規設置やオペレーションを行っています。

ホームページ: <https://www.penny.co.jp/>



※ガチャ®は(株)タカラトミーアーツの登録商標です。

※掲載している写真は開発中のため、実際の展示、配布物とは多少異なる場合があります。

◆本件に関する報道関係からのお問い合わせ先

株式会社タカラトミーアーツ
事業企画部 広報宣伝課

TEL:03-5680-4837/FAX:03-5680-4918

◆本件に関するお客様からのお問い合わせ先

タカラトミーアーツお客様相談室
TEL:0570-041173(ナビダイヤル)
www.takaratomy-arts.co.jp

ガチャ®の歴史 1

手のひらにワクワクとドキドキ

アメリカで生まれたカプセルトイと自動販売機

日本にガチャがやってきたのは1965年（昭和40年）

現在のガチャの原型となるベンディングマシンとカプセルトイはアメリカで誕生。

これを1965年に日本のペニー商会*1が輸入し、店先に設置していきました。

1965年・・・日本は高度成長期の真っ只中。

透明なカプセルがぎっしり詰まった不思議なマシンに子どもたちはみんな釘付けになりました。ここからガチャの歴史が始まりました。

※1：現在の株式会社ペニーの前身



出典：アサヒグラフ



2月17日は「ガチャの日」

今では子どもから大人まで幅広い世代に愛されるガチャ。

そんなガチャの魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい。

その思いから日本で初めてガチャマシンを設置した「ペニー商会」

の創立日の2月17日が「ガチャの日*2」として登録されています。

※2：日本記念日協会認定



ガチャ®の歴史 2

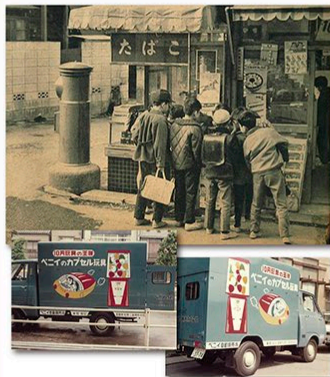
子どもたちの人気者になった「ガチャ®」

アメリカ生まれのカプセルトイが海を越えて日本へやってきたのは1965年のこと。

日本に輸入され、透明なカプセルの詰まったマシンがおもちゃ屋や駄菓子屋、文房具店の店先に置かれました。



当時のガチャカプセルは10円、20円が主流で、乗り物やロボットの形をした消しゴムやシンプルなプラスチックのおもちゃが入っていました。



町中に設置されたガチャはたちまち子どもたちの人気となり、品切れして1日に何度もカプセルを補充することもあったそうです。



デパートの屋上遊園地に置かれたガチャマシン。子どもたちが夢になったカプセルが詰め込まれています。

ガチャ®の歴史 3

●今や「ガチャ®」は日本を代表する文化のひとつに!●

マンガやアニメと並び、近年日本のポップカルチャーとして人気の高いガチャ
その人気ぶりは日本国内のみにとどまらず、海外でも注目を集めています。

日本文化を忠実に、時には変化球で表現

古くから日本に伝わる伝統芸能や文化を
ガチャで表現することで日本国内外問わず多くの方に
日本文化を知ってもらおうきっかけになります。
もちろんガチャならではのちょっと肩の力を抜いたゆる
い感じの商品もあります。



盆栽ならめ盆“菜”
鉢植えの野菜たちが生み
出す「わびさび」



日本の伝統芸能「能楽」
古くからある歴史分野を
知るきっかけにも



思わず2度見するインパクト
ついつい買ってしまふ不思議
な魅力もガチャならでは

日本に昔からあるミニチュア化は伝統文化

小さな鉢に自然を再現した「盆栽」
ひな人形やその家具、調品など細密な技術をほど
こした繊細な工芸品を見ても日本では小さな物を精
巧に作る技術が磨かれ、ミニチュア化文化が昔から発
展しているのです。



リアルな再現性はもちろん
使い方を学べると話題に
東日本電信電話株式会社 西日本電信電話株式会社
協力:NTT研究所



ミニチュアサイズながら
本物とそっくりのギミック
を搭載しリアルさを追求



ガチャの造形・塗装の技術
は日々進化!擬態する昆虫
をリアルに再現

ガチャ®の歴史 4

●なつかしい!このガチャ®知ってる?●

ガチャが日本へやってきて50年以上。さまざまな年代の方の手のひらにドキドキとワクワクを届けてきました。

当時の子どもたちのココロを驚つかみ!一部商品は今でも **Let's Go!** 飛び出すガチャの世界へ
バリエーションを変えて販売しています!



1993年3月発売

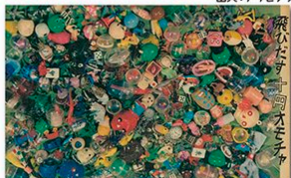


1990年発売



2002年8月発売

約60年前のガチャ商品は
こんな感じだった! 出典:アサヒグラフ



当時の人気はガイコツ!見つけられるかな?

ガチャマシンのいろんな
バリエーションがありました!



おやつキング ビッグマシン キンパンディングマシン

スマホで二次元コードを読み取って、下の画像を映してみよう。

- ①二次元コードを読み取る。
- ②画面に表示されるURLをタッチして、「表示する」を選択する。
- ③機種によってカメラなどのアクセス許可を求められるので全て許可する。
- ④カメラが起動したら下の画像を画面に映してみよう。

